

11 編入学者、退学者

1) 退学者の状況と退学理由の把握状況

(A群:退学者の状況と退学理由の把握状況)

【現状の説明】 まず出学（退学・除籍）者数の推移を年度別に下表に示した。出学（退学・除籍）者数は、増減はあるものの130名～160名の間で推移している。

年度別出学者数					
2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
130	145	123	159	141	142

これらの理由の詳細は巻末資料2「学科別出学者一覧」のとおりである。

このところ少なからぬ退学者のあることが指摘されている。この中には、近年の傾向として、経済的な理由によりやむを得ず退学を余儀なくされている者も少なくない。一方、精神的問題により学業を続けることが出来ない者も存在する。これらの学生については、前者については、公的あるいは大学独自の奨学金などにより、また後者に対しては、学生相談室にカウンセラーを置くなどして、出来る限り学業を続けられるように対処している。

次の問題は、大学へ入学したものの、学業の面で躓きを覚え、授業への欠席が多くなった学生に対する対応である。本学では授業への出席を重視しており、休みがちな学生の情報を得やすい。それらの情報を専従の係員に集めることにより、休みがちな学生一人一人に電話をすることにより大学へ呼び出し、授業を休むようになった理由を聞くなど、アドバイスをするとともに、授業出席を促している。さらに、大学へ出てくるようになった学生に対しては、1年生の場合には、その学生に入学時よりアドバイザーとして割り当てられている教員が、2年生以上の場合には、演習（ゼミ）担当の教員が、相談に乗っている。

これらの努力によって、学生が不幸にも退学せざるを得ない場合でも、その退学理由などについて正確な情報を把握している。また、退学に際し、上記のアドバイザーあるいは演習担当の教員が、保護者の意思をも確認する体制をとっており、この点でも退学に対し慎重な対応をとっている。

入試の形態と退学者との関連性を探るべく分析を試みた結果、推薦と一般入試Aに退学者の比率が高いことが判明した。学力に不安を抱えるAO入試合格者の動向が懸念されたが、それほどではない。高校時代に推薦が受けられたので入学したといった安易な進学、一般入試での不本意入学などが問題になる可能性が高い。

【点検・評価】 出学者対策は、大学にとって重要な問題であると認識しており、退学理由のデータを集めている。学生相談室によるカウンセリング、休みがちな学生に対する呼び出し業務、ラーニングセンターでの相談など、専任の教職員による日常的な対応は、講義や演習担

第4章
学生の受け入れ

当の教員の教育努力を補完する上で大きな効果を発揮しており、退学にいたる原因を早期に把握するとともに、対策をとることによって、退学者の数を減らしていると思われる。

【課題・方策】 退学にいたる理由を正確に把握することは容易ではない。様々な要因が複合して退学に至るからである。現在のアドバイザー教員による聴取は退学理由の把握に成果を上げているが、客観的判断にはなお不十分と言わざるを得ない。目下、学生部委員会を中心に、退学願提出時のアンケート記入について、項目および実施時期等を検討している。

学生をひきつけるのは何よりも授業の充実であるが、その上で、上記の対策を質・量とも、より充実させることが必要である。いずれにしても、入学後に学生の問題点や不満をうまく捌き上げ、学生の勉学意欲を生み出せるような興味深い授業や学生生活を創出する努力が、大学としても一層必要であり、この点についてはFD委員会でも検討がなされている。

2) 編入学生及び転科・転部学生の状況

(C群: 編入学生及び転科・転部学生の状況)

【現状の説明】 2001年度以降の編入学者数は以下のとおりである。

年度	政治経済学部				人文学部				人間福祉学部				合計	
	政治経済		コミュニティ政策		欧米文化		日本文化		児童		人間福祉			
2001	4	(0)	—	—	2	(0)	2	(2)	3	(1)	4	(4)	15	(7)
2002	1	(0)	1	(0)	4	(2)	3	(2)	3	(2)	10	(7)	22	(13)
2003	10	(3)	1	(0)	3	(3)	6	(5)	4	(4)	10	(7)	34	(22)
2004	6	(2)	3	(2)	4	(2)	1	(1)	5	(4)	10	(6)	29	(17)
2005	11	(3)	5	(5)	4	(4)	7	(5)	2	(2)	5	(4)	34	(23)
2006	16	(4)	5	(1)	7	(5)	6	(4)	2	(0)	7	(2)	43	(16)
合計	48	(12)	15	(8)	24	(16)	25	(19)	19	(13)	46	(30)	177	(98)

※ カッコ内は女子で内数

本学では現在は編入学定員を設けてはいない。しかしながら、毎年若干名の募集を継続して行っている他に、指定校の短期大学からの編入学を認めている。さらには、近年留学生を受け入れるに際して、1年次入学ではなく編入という形で入学を希望する者が大幅に増えつつある。本学では修学目的が明確であることを条件として審査を行っているが、その結果、毎年度大学全体として29～43名の編入学生を受け入れている。

転科・転部の制度はあるが、転科・転部を希望する学生は例年、極めて少数に止まっている。

【点検・評価】 定年退職後の大学入学や生涯学習の観点からも編入生の受け入れは積極的に行うべきであろう。この数年安定的に編入生が確保されていることから、定員管理の点からは、
【課題・方策】 編入学生定員を設けることも検討する段階に来ている。